

## Sumitomo Mitsui Banking Corporation Brazil DAILY MARKET REPORT



Treasury Department

## マーケットサマリー

昨日のドルレアルスポット相場は、軟調な原油価格を受けて2.67台後半で取引が始まった。アラブ首長国連邦(UAE)のエネルギー相が、「11月に減産を見送った石油輸出国機構(OPEC)の決定は正しい判断であった」との見解を示したことを受け、一時6年ぶりに安値を更新する局面も見られた。また、米エネルギー情報局(EIA)が昨日公表した月間リポート「短期エネルギー見通し」において、2015年の米原油生産量を7.4%増と予想するなど、米国における在庫増加観測も原油価格の重石になっている。産油国通貨に連動する形で弱含んだレアルであったが、引けにかけてはLevy財務相の発言を受けて急速に買戻しが進行し、2.64台半ばで取引を終えた。ボベスパ株式指数は3営業日続落の前日比0.2%安。一方、前日に大きく水準を切り下げたペトロブラス株は、Levy財務相が「同社は燃料価格決定権を従来よりも主体的に有すべき」との考えを示したことで前日比1%高となった。なお、同社は6日に外国政府関係機関との間で、1月末までに監査なしの第3四半期決算を公表することで合意したと発表した。その期限を1月30日に設定する見込みであると、関係者の発言として報じられた。

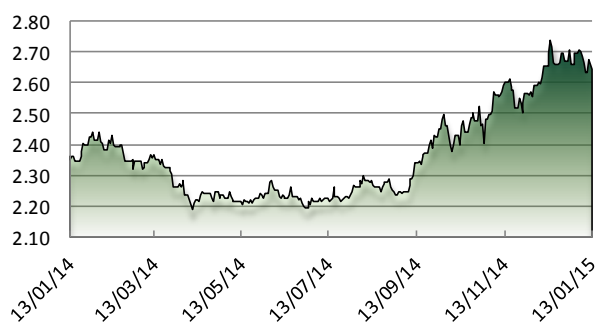
Levy財務相は昨日記者団に対し、「長期的には政府の純債務をGDPの50%以下に抑制する」と発言した。1期目のルセフ政権では歳出拡大路線に走った結果、財政の悪化を招き、S&Pやムーディーズといった米格付会社が揃って格下げを行うなど、海外投資家の信頼を失うこととなった(これを主因として、2014年にレアルは対ドルで11%減価した)。2期目のルセフ政権では、Barbosa予算企画相が先月29日、失業手当と年金給付を見直すことで年間67億ドル程度の支出削減効果が見込めると発言するなど、新経済チームを中心に緊縮財政への取組が進行しており、今後もレアルが一時的に買い戻される局面が出てくるであろう。

## マーケットデータ

Indicator	Unit	1月12日	1月13日	前日比	12月12日	1ヶ月前比
BRL / JPY Spot	JPY	44.27	44.61	+0.34	44.76	-0.15
USD / BRL Spot	BRL	2.6737	2.6432	-0.0305	2.6541	-0.0109
USD / JPY Spot	JPY	118.35	117.93	-0.42	118.75	-0.82
Bovespa (ブラジル株価指数)	Index	48,140	48,042	-98	48,002	+40
CDS Brazil 5yrs (クレディットデフォルトスワップ)	bps	211.1	207.9	-3.2	212.2	-4.3
Brazil 10yrs Gov. Bond	%	12.31	12.21	-0.10	12.59	-0.38
DI Future Apr16 (金利先物)	%	12.75	12.66	-0.09	12.60	+0.06
3 Months US Dollar Libor	%	0.253	0.253	+0.000	0.243	+0.010
CRB Index (国際商品指数)	Index	220.8	219.7	-1.1	243.7	-24.0

これらのレートは各市場における終了時点の気配値です。実際のレート提示は弊行担当者までお問い合わせ下さい。

ドルレアルスポットチャート



レアル円スポットチャート

